

2011.2.25開催「第37回SCCJセミナー」参加申込書

必要事項をご記入の上、下記宛FAX送信下さい。折返しFAXにて受付完了をご連絡いたします。
お申込後、数日以内に返信FAXが届かない場合は、事務局TEL:045-590-6025へお問合せ下さい。
※ [代理]とは、正会員が不参加の場合につき、代理1名まで会員料金での参加をご利用頂けます。

尚、準会員・シニア会員には代理出席権はございません。

※ SCCJ誌の年間定期購読者は非会員のため、参加区分は[一般]となります。

※ 当セミナーでは、参加証の発行はございません。

SCCJ事務局宛
FAX:045-590-6093

フリガナ 参加者氏名	参加区分に○印					代理の場合 正会員氏名記入	所属 支部		事務局記入欄 受付No.
	正会員	準会員	シニア会員	代理	一般		東京	大阪	
1	正会員 ¥13,000	準会員 ¥13,000	シニア会員 ¥13,000	代理 ¥13,000	一般 ¥19,000		東京	大阪	
2	正会員 ¥13,000	準会員 ¥13,000	シニア会員 ¥13,000	代理 ¥13,000	一般 ¥19,000		東京	大阪	
3	正会員 ¥13,000	準会員 ¥13,000	シニア会員 ¥13,000	代理 ¥13,000	一般 ¥19,000		東京	大阪	
4	正会員 ¥13,000	準会員 ¥13,000	シニア会員 ¥13,000	代理 ¥13,000	一般 ¥19,000		東京	大阪	
5	正会員 ¥13,000	準会員 ¥13,000	シニア会員 ¥13,000	代理 ¥13,000	一般 ¥19,000		東京	大阪	

お振込みを担当された方の連絡先をご記入下さい。

(フリガナ)	
企業名 :	お振込名義 : 37
TEL :	お振込予定 : 月 日 ()
FAX :	内訳 : ¥13,000 × 名 + ¥19,000 × 名
E-mail :	振込合計 : ¥

～ スムーズな受付処理へのご協力をお願い致します～

申込締切り：2011年2月10日(木)
入金締切り：2011年2月17日(木)

キャンセルは **2011年2月17日(木)迄**にSCCJ事務局へFAXにてご連絡下さい。

キャンセル締切り日以降はご返金が出来ませんので、御了承下さい。

会 員 各 位

2010年12月27日
日本化粧品技術者会
本部 事務局

第37回 SCCJセミナー開催のご案内

本セミナーは化粧品を創るためのさまざまな分野からテーマ選定をしてみました。今回は「明日から使える分散技術～その理論と応用～」と題し、製剤技術の基礎のひとつとなる分散をテーマに取り上げました。セミナーの企画に際しては、製剤を検討する上で重要と考えられるレオロジーを含む分散の基礎的な内容から、種々の製剤での応用技術の紹介まで幅広い内容を取り上げました。今回のセミナーでは大学から1名の先生、業界内外から6名の先生を講師としてお招きし、さまざまな関連した基礎研究や技術動向について広くお話いただきます。また本セミナーの特色でもある、講演後の講師の先生方と意見交換ができるフリーディスカッションの場もご用意いたします。講師の皆様と直接議論する事で、聴講するだけでは得られない新たなヒントも見つけられるものと思います。こちらにも奮ってご参加ください。

記

日 時 2011年2月25日(金) 10:15～17:50 (受付開始9:45)
会 場 セミナー：大阪国際交流センター 大ホール
フリーディスカッション：同会場 さくらの間
〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8-2-6
TEL：06-6772-5931(代表) <http://www.ih-osaka.or.jp/>

参加費

会員(正・準・シニア)	13,000円
代理出席(注1)	13,000円
非会員	19,000円
当日受付(会員・非会員共に)	19,000円

(注1)正会員1名につき代理1名が代理出席を利用できます(正会員が不参加の場合)。

申込方法 同封のFAX申込用紙に必要事項をご記入の上、下記の番号までFAXを送信願います。

FAX ⇒ 045-590-6093

申込FAXを受け付けましたら、確認のFAXを事務局から発信致します。
3日～4日以内に確認のFAXが届かない場合は、事務局までご連絡を
お願い致します。参加証はお送りしませんのでご了承願います。

＜申込締切り日 2月10日(木)＞

＜振込締切り日 2月17日(木)＞

お振込みの際、振込人氏名(御社名)の前に**37**をご記入願います。

振込先 みずほ銀行 銀座支店 普通 1797932
「日本化粧品技術者会 代表 嶋原 靖宏(シギハラ ヤスヒロ)」

キャンセルおよび複数同時のお振込みの詳細は最終ページをご覧ください。

明日から使える分散技術

－その理論と応用－

<スケジュール>

<総合司会 早瀬 基 (株)カネボウ化粧品>

時間	題目・講師
10:15 ~ 10:20	開会の挨拶 セミナー委員長 鈴木 裕二

<座長 森田 寛三 (牛乳石鹸共進社(株))>

10:20 ~ 11:10	分散と分散系のレオロジーの基礎 千葉大学大学院工学研究科 大坪 泰文先生
11:10 ~ 11:50	顔料分散に及ぼす顔料粉体の表面処理の効果と応用 大東化成(株) 田中 巧氏
11:50 ~ 13:00	昼食休憩

<座長 栗山 健一 (株)マンダム>

13:00 ~ 13:40	紫外線散乱剤分散系の評価法 (株)資生堂 那須 昭夫氏
13:40 ~ 14:20	「きれい」をつくる分散技術 ～メイクアップ化粧品における着色顔料分散について～ (株)カネボウ化粧品 永井 智雄氏
14:20 ~ 15:00	肌を育むための分散技術～ベシクルの分散について～ (株)コーセー 紺野 義一氏
15:00 ~ 15:10	休憩

<座長 前野 広史 (株)コスモステクニカルセンター>

15:10 ~ 15:50	顔料分散における湿式微粉碎技術 (株)井上製作所 大江田 浩光氏
15:50 ~ 16:30	自動車用塗料における分散技術 関西ペイント(株) 原川 浩美氏

<総合司会 早瀬 基 (株)カネボウ化粧品>

16:35 ~ 17:45	フリーディスカッション
---------------	-------------

17:45 ~ 17:50	閉会の挨拶 セミナー副委員長 和田 光弘
---------------	-------------------------

講演①「分散と分散系のレオロジーの基礎」 千葉大学大学院工学研究科 大坪泰文先生

要旨：多くの化粧品は、液体中に微粒子が分散した不均一系となっているが、このような分散系において粒子は凝集体として存在しているのが普通である。凝集体は流動を与えると簡単に破壊され、そのため、凝集分散系はせん断速度の増大とともに粘度が減少する擬塑性流動を示す。しかし、粒子間に柔らかい結合を導入すると、分散系の粘度レベルと流動パターンを独立に制御することが可能となる。本セミナーではまず分散系とレオロジーの基礎に関して解説した後、さらに分散系の新しいレオロジー制御法について概説するとともに、ナノ粒子分散系の特異なレオロジー挙動についても紹介する。

講演②「顔料分散に及ぼす顔料粉体の表面処理の効果と応用」 大東化成(株) 田中巧氏

要旨：顔料粉体を化粧料（特にメイクアップ化粧料）に配合するために、顔料粉体に表面処理を施すことは重要な技術である。すなわち表面処理により、顔料粉体の持ついろいろな媒体への分散性を向上させたり、分散状態をコントロールすることが可能となる。本講演では、表面処理が顔料分散に及ぼす効果について具体例を交えて説明する。

講演③「紫外線散乱剤分散系の評価法」 (株)資生堂 那須昭夫氏

要旨：サンスクリーンには、紫外線を防ぐ目的で微粒子の紫外線散乱剤が多く含まれている。しかしながら、これらの粉体は表面エネルギーが大きく、分散媒の中で粉体間に強い凝集力が働く。そのため、適切な分散条件や分散剤の選定が機能を発揮させる上では重要となる。さらに、分散性の評価も個人の経験や官能に頼りがちで、定量性に欠けるものが多い。ここでは、化粧品のような複雑系における微粒子粉体の分散安定化の考え方とレオロジー解析に基づく分散性評価法およびその特徴について述べる。

講演④「「きれい」をつくる分散技術～メイクアップ化粧品における着色顔料分散について～」

(株)カネボウ化粧品 永井智雄氏

要旨：メイクアップ化粧品は、色彩で肌を彩る目的で使用されるため、どの製剤にも着色顔料が配合される。一方、油系、水系、パウダー系等多岐にわたる製剤中に着色顔料を分散するには、それぞれの処方系に固有の困難さが伴う。分散が不十分であると、メイクアップ化粧品の本来の性能である発色効果の減少や製品の安定性に問題を生じることとなる。本講演では、各処方系に着色顔料を分散する際に発生する問題点、対処方法などについて解説する。

講演⑤「肌を育むための分散技術～ベシクルの分散について～」 (株)コーセー 紺野義一氏

要旨：分散とは固体または液体の微粒子を液体中に一様に懸濁することである。ベシクルは両親媒性物質の自己組織体であるラメラ液晶（ゲル）を同心円状の微粒子として水に分散したものであり、化粧品製剤に応用されている。本講演ではリン脂質で構成されるベシクル、いわゆるリポソームやアニオン界面活性剤で形成されるベシクルの製剤化技術について、分散安定化という視点から概説する。

講演⑥「顔料分散における湿式微粉碎技術」 (株)井上製作所 大江田浩光氏

要旨：塗料、印刷インキ、プラスチック、化粧品等には、顔料が使われることが多い。着色力や鮮明性など顔料本来の性能を発揮させるには、顔料粒子をできるだけ微粒・均一かつ安定な状態でビヒクル（顔料を分散させる媒体で、液体成分をいう。）中に分散させることが必要である。従って、顔料分散には顔料だけでなく、ビヒクルに関する情報及び分散機の特長やメカニズムなど広範囲な知識が要求される。近年では、微粒子化やナノ粒子化の製造が求められ、それに伴い分散機も進化している。ここではハイテクな分散要求に応える、最近の湿式微粉碎技術について、具体例を交えて解説する。

講演⑦「自動車用塗料における分散技術」 関西ペイント(株) 原川浩美氏

要旨：塗料は塗布することにより液状態からフィルムへと変化し、その多くは平滑で艶のある表面であることが要求される。つまりバインダーなどは溶解状態にあることが基本となるが（溶剤系塗料）、着色剤の顔料は分散系のため、顔料の取り扱いが主な分散技術だった。近年主流の水性塗料においては、溶媒がバインダーにとっては 明らかな貧溶媒である「水」に限られるため、塗料そのものが複雑な分散系になっている。本講演では、自動車塗料におけるこれらの分散技術を紹介する。

<お願い事項>

- お申込み後にキャンセルされる場合は、本部事務局宛**2月17日(木)**までにご連絡をお願い致します。参加費納入済みの場合には、後日ご返金致します。**2月18日(金)**以降にキャンセルされたときは、ご返金致しませんのでご了承下さい。
- 申込書に記入された振込金額と異なる場合は、必ず事務局まで **FAX (045-590-6093)** にてお知らせ願います。入金確認業務の円滑化にご協力をお願い致します。

<お問合せ・お申し込み先>

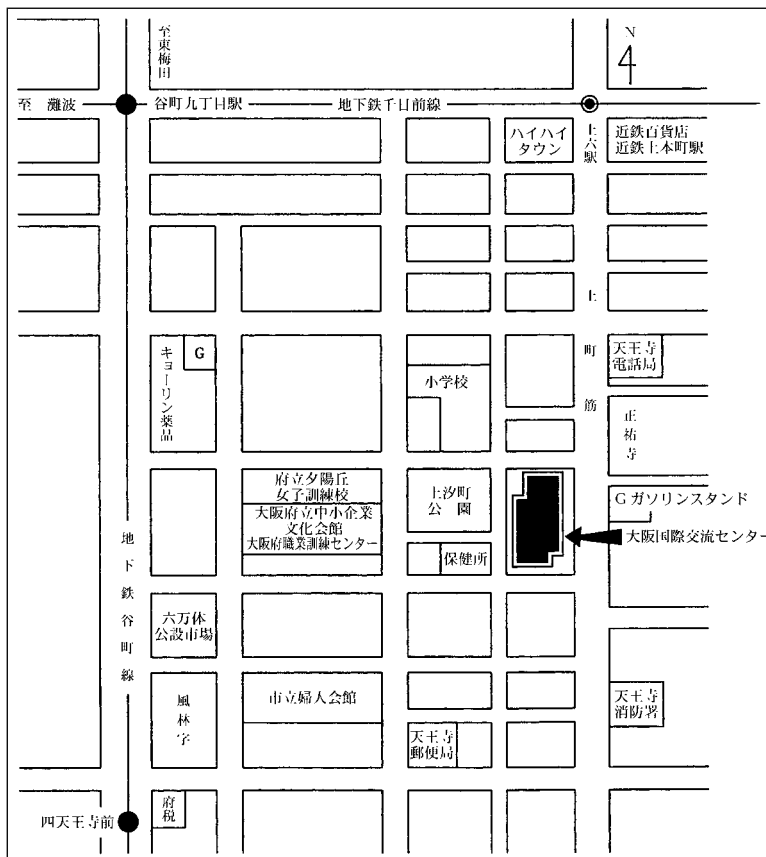
日本化粧品技術者会 本部 事務局

〒224-8558 神奈川県横浜市都筑区早渕2-2-1

資生堂リサーチセンター(新横浜)内 (担当:森、内藤)

TEL:045-590-6025 FAX:045-590-6093

<会場地図>



■交通アクセス

- 地下鉄梅田方面からお越しの方:「谷町九丁目」下車徒歩10分
- 地下鉄天王寺方面からお越しの方:「四天王寺前」下車徒歩10分
- 近鉄利用の場合:「上本町」下車徒歩5分